

「迷い出た者を連れ戻す恵み」

ヤコブ5：19, 20

堀田修一 21・8・22

「あなたがたの中に、真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すならば、罪人を迷いの道から連れ戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの罪をおおうことになるのだと、知るべきです」：19, 20。

I この御言葉の意味。ヤコブの手紙の最後の御言葉：迷い出やすい私達への恵みの御言葉。

1. 「信仰から迷い出た者」とは、素晴らしい主を信じて信仰に入った後に、主との関係、真理から迷い出た者を指す。主にある私たちが、主にある真理の中で共に成長することは、霊的目標であり喜び。と同時に、主と真理から迷い出た者があるなら、主に立ち返るように心から祈る事が大切である。これは、すべてのキリスト者の務め。19節の「連れ戻す」という言葉は、ルカ22：32では、主がペテロに言われた言葉、あなたは、「立ち直ったら」と同じ原語。主が、三度、主を知らないと言うペテロの為に祈られた。「わたしは、あなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」：32。ペテロは、その直後に言った。「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております」(22：33)。彼は、自分の弱さにまだ深く気づかず高慢だった。その後、彼は、主を知らないと三度言ってしまふ。しかし主は、彼を、そして弱さと失敗の多い私たちを見捨てられない。「主が振り向いてペテロを見つめられた(深い深い愛をもって)。ペテロは、『きょう、鶏がなくまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言う』と言われた主のおことばを思い出した。彼は、外に出て、激しく泣いた(悔い改めの涙)」(22：61, 62)。主は、私達の悔い改めの涙も、優しくぬぐって下さる。
2. 十二使徒の代表格であるペテロの失敗と回復が記されている聖書は、全世界の教会と私たちへの励ましである。弱さのある私たちは、互いを上から目線でさばかず、互いの為に祈りたい。また、信仰から離れている人々、離れかけている人々の為に、神を信頼し、心から祈りたい。私達は、誰かよりも偉い者ではなく、神に自分の罪を正直に告白し赦しを受け続けて来た罪人であり、神の憐みを受け続けている恵みをいつも覚えたい。「正しい人の祈りは、働くと大きな力があります」5：16。正しい人とは、罪がなくなった人ではなく、主を信じ、神に自分の罪を告白し、主の十字架の恵みのゆえに、神の前に正しいと認められた人である。「罪人を迷いの道から引き戻す者」は、神がなさる二つの大事業に参加する。
 - ①「罪人のたましいを死から救い出し」。罪人のたましいを死(いのちの神から離れた状態)から救い出し、神との交わりを回復させる。
 - ②「多くの罪をおおう」。私たちのあきらめずに祈る祈りに神が答えられ、主から離れていた

人が神に立ち返り、「私のこれまでの罪を赦して下さい」と祈るなら、主の十字架の血の恵みの故に、その人の多くの罪が主の十字架の血の恵みでおおわれ、赦される。それは、神の恵みの結果であり、決して私たち人間にできることではない。ただ私たちがなすべき分も神は与えておられる。それは、一人一人の信仰の回復の為に祈る事である。全世界に、この日本に、主を信じ洗礼を受けた後に、主と教会から離れている方々が多くおられる。この人々の信仰の回復のために、愛と信仰を持って祈りたい。このヤコブの手紙の終わりの御言葉は、素晴らしい勧めと慰めに満ちている。※証し。ある人が主と教会の交わりに戻られた恵み。主のもとに戻る道を閉ざさない愛。しつこ過ぎない、ちょうど良い声掛けを主は用いられる。

Ⅱ 大きな励まし、慰め、恵み。

1. 罪人のかしらである私たち自身が、洗礼を受けて今日まで、主から離れないで支えられているのは、神の恵み、憐みのおかげ！私達が主をつかんだのではなく、主が先につかんでおられる。奇跡的な恵みである！私は、本音で、感謝している！「私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ」（哀歌3：22）。私たちは、罪の誘惑に弱く、いかに、主から離れやすいことだろうか。にもかかわらず、今あるのは、神のおかげ、そして他の人々の祈りの支えのおかげである。「私たちのために祈ってください」（コロサイ3：1）と互いに祈りの支援の要請をしたい。神の恵みと人々の祈りの支えをいつも忘れず感謝したい。そして祈り続けたい。主から離れている人々の回復の為に。ある人々は、信仰を回復し主に仕えている。※証し。私達も、表には出なくても心が主から離れ、主により回復させていただく恵みに生かされている。
2. 迷いやすい霊的な羊である私たちを探し続けて下さる主、羊飼い。私たちの存在を喜んで下さる主。「あなたがたのうち羊を百匹持っている人がいて、そのうちの一匹をなくしたら…いなくなった一匹を見つけるまで捜し歩かないでしょうか。見つけたら、大喜びでその羊をかついで、帰って来て、友だちや近所の人たちを呼び集め、『いなくなった羊を見つけましたから、いっしょに喜んでください』と言うでしょう。…それと同じように、ひとりの罪人（私たちを含む）が悔い改める（神に立ち返る）なら、…喜びが天にあるのです」（ルカ15：4～7）。「私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼（イエス様）に負わせた」（イザ53：6）。「私は、滅びる羊のように、迷い出ました。どうかあなたのしもべを捜し求めてください。私はあなたの仰せを忘れません」（詩119：176）。
3. 「それでもなお（大きな罪を悔い改めるように忠告しても）、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人か取税人のように扱いなさい（教会戒規、除名）」（マタ18：17）の文脈に続く御言葉→「もし、あなたがたのうちのふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます」（18：19）。神は、祈りを聞いて下さる。私たちは、主から離れているメンバーの霊的な回復の為に心から祈りたい。戒規の目的は、その人を倒す事ではなく、その人が自分の罪を認め、神のもとに立ち返る事である。

4. 地上にいる私たちの祈りを心の中で助けて下さる「聖霊なる神」と恵もうと待っておられる「父なる神」に、私たちの祈り、願いを天で、取り次ぐ、届ける、とりなす大祭司（神と人の仲介者）「キリストなる神」がおられることを深く覚え心から感謝したい。「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が…私たちのためにとりなしてくださいませ」ローマ8：26。「罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられたかたであるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなして下さるのです」8：34。父なる神の罪深い私達への愛を示す御言葉→放蕩息子は、父の深い愛が分からず罪深い生活を続け我に返って言った：「立って、父のところに行こう（立ち返ろう）。そしてこう言おう。『お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。もう、息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。』」こうして彼は立ち上がり、自分の父のもとへ向かった。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけて、かわいそうに思い、駆け寄って彼の首を抱き」ルカ15：18－20。今も父なる神は、神から離れ易い私達が、自分の罪を認め神に立ち返る時、深い大きな愛をもって私達を抱きしめて下さる。※証し。神に倣う子育て。

三位一体の神の励ましを受け、あきらめず、人々の救いと信仰の回復の為に祈り続けましょう。